

令和3年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

( 中間 **最終** )

白岳中学校区 校番 3 学校名 呉市立白岳中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>基礎的・基本的な知識・技能を習得させ思考力・判断力・表現力の育成を図る。</p>	<p><b>貫</b> 生徒が主体的に学ぶ授業づくりを行う。</p> <p>学習観をレベルアップさせ、自律した学習者を育てる。</p>	<p>分からないことを分かってもらう生徒は90%を超えている。日々の授業やJCノートを活用して、自分の苦手なことを克服しようとする姿が見られる。また、学年があがるにつれ割合が高くなることから、入試や自分の将来に向けて主体的に学ぼうとする思いがより強まるのが分かる。一方で、学習に気持ちが向かない生徒がどの学年においても一定数いることが課題である。</p> <p>自主学習ノートの提出率は90%を越えた。学習内容も、充実してきている。一方で、家庭学習の時間は目標値より低く、学び方5を意識した学習も目標値を下回った。どちらも、学習観レベルアップ講座の実施時期が遅かったことが要因の1つと考えられる。読書については、1ヶ月の冊数が0という生徒が多いことが課題である。</p>	<p>生徒が学びたくなるように導入を工夫し、学習に気持ちが向くようにする。また、学習に意欲を持ってない生徒については、できた部分を評価したり、簡単なプリントを用意したりするなど、生徒が少しでも達成感を味わえるような授業展開や声かけをしていく必要がある。</p> <p>自主学習ノートについては、さらなる内容の向上を図っていききたい。家庭学習については、教科担任と学級担任が連携し、定着を図っていききたい。学び方5については、教師自身の意識の向上を図りつつ、レベルアップ講座の内容を繰り返し生徒に意識させたい。読書については、図書委員会を活用し、生徒への呼びかけを行っていききたい。</p>
**	<p>話し合い活動の中で自己決定能力を高め、規範意識を身につけ、認める・ほめる指導により、自尊心を高める。</p>	<p><b>貫</b> ルールやマナーなど規範意識を身につける指導の徹底を図る。</p> <p>キャリア教育を充実させ、明確な夢や目標を持つ生徒を育成する。</p>	<p>ルールやマナーを守って生活している生徒の割合は、99%となり、目標値を達成することができた。あてはまると回答した割合は学年が高くなるごとに84%程度から91%程度まで増加傾向にあり、概ねあてはまるとは学年が高くなるにしたがって14%程度から8%程度まで減少する傾向にあることから、学年が進むにつれて完璧にルールやマナーを守って生活できる生徒に成長している可能性がある。学級の委員会の生徒が主体となり、前向きに取り組むを進めることが功を奏する結果となっている。</p> <p>文化活動発表に満足している生徒の割合は85.2%となり、目標値を上回っている。昨年度は実施できなかったが、今年度は例年と内容を変更しての実施となった。部活動や授業での取組を全校生徒で展示見学することができ、相互理解の場を設けることができた。また、生徒会が中心となって取組内容を検討し、生徒が主体的に動くことができた。</p> <p>部活動に満足している生徒の割合は、91.2%となり、目標値を上回っている。今年度は大会が実施されているため、大会に向けて、具体的な目標を持ち、努力をする生徒が増えた。</p>	<p>ノーチャイム運動や無言清掃チェックなどの規範意識を高める運動を引き続き進めていく。また、学級だけでなく、部活動とも連携し、ルールやマナーを定着させるような取り組みを考えて行っていく。今後も、主体的かつ前向きに行動する習慣を如何に身につけていかを自ら課題を設定して考える方法で改善する。</p> <p>生徒会執行部が主体となった取組を進めていくことで、全校生徒がより意欲的な学校生活を送ることにつながる。来年度の行事の成功に向けて、地道な生徒会活動を行っていききたい。</p> <p>部活動については、今後も自分自身の目標を考える機会を増やし、生徒がより主体的に取り組めるようにしていきたい。</p>
*	<p>教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備</p>	<p>児童生徒と向き合う時間の確保</p> <p>長時間勤務の削減</p>	<p>教職員アンケートの「生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合」における肯定的評価は、85%であった。目標値85%のため達成することができた。しかしながら、4人の教職員が生徒と向き合う時間が確保できていないと感じている。考察すると、2学期は感染症対策を講じた学校行事の実施による負担や、生徒指導等の課題や業務が過密になったと考えている。</p> <p>8月～12月までの5ヶ月間で、26人の常勤教職員の時間外勤務時間について、時間外在校時間が45時間を越える教員は、延べ人数で25人いた。従って、5ヶ月トータルで45時間未満の職員は80%であった。月別に考察してみると10月7名、11月11名、12月5名、9月2名であった。従って、行事、部活動、評価の時期に長時間勤務に、どうしてもなりやすい。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の流行期や感染者の減少期によって、学校運営を感染症レベルに応じて実施しなければならない。従って、先を見通した学校運営が難しい。しかしながら、普通の業務について、無くても良い業務をスクラップしながら、さらに業務改善の意識を高めていきたい。</p> <p>日常のルーティンワークの簡略化や業務の見直しを図り、時間外勤務時間の縮減につなげていく。先行きの見えないコロナ対策により、難しい局面ではあるが、思い切った、現実的な業務の見直しを行って行く必要がある。</p>